KEIWA COLLEGE REPORT

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌
敬和カレッジ・レポート
第64号 October 2010
発行／敬和学園大学後援会　敬和学園大学広報委員会

Close up

「敬和の庭」　第二代学長　新井明

敬和学園大学20年の歩み（2001-2005年度）

アメリカと日本を結ぶ　交換留学プログラム

敬和祭・まちカフェのご案内

3年生就職活動にむけたキャリアサポート

20周年記念事業　記念式典・記念誌・校歌制定

城下町新発田まつり　民謡流しに参加

キッズ・カレッジを開催

地域の子どもたちを対象に「夏休み陶芸教室」を開催しました。講師の趙晤衍（チョウ オ ヨン）先生（共生社会学科）は陶芸家でもあり、陶芸を通じて、障がい者一人ひとりの自己実現を援助する福祉実践活動を続けています。

今回は、32名の子どもたちが参加しました。趙先生の指導、そしてボランティアの地域の愛好家の皆さんや陶芸部の学生たちのサポートで、子どもたちは真剣な表情で、集中して思い思いの作品づくりをすすめました。できあがった作品は、秋の聖籠町の文化祭で展示されます。

もくじ CONTENTS

Close up …… 1
「敬和の庭」第二代学長 新井明

敬和学園大学20年の歩み（2001-2005年度） … 4
「開学の思い出、今後の期待」オレンジ会会長 渡辺幸二郎
「地域への奉仕と証し」シャーローム理事長 原田史郎

アメリカと日本を結ぶ交換留学プログラムが進展 … 6
JCLP・ACLP参加学生の声

敬和祭のご案内 …… 8
「ありがとう20年〜敬和より愛をこめて〜」

「まちカフェ・りんく」リニューアル・オープン …… 8

3年生の就職活動にむけたキャリアサポート … 9

創立20周年記念事業 …… 10
20周年記念式典等のご案内
20周年記念誌・DVDの発行、校歌の制定

同窓会リレー・エッセイ⑯ …… 12
「大家族に感謝」寒河江聡（7期生）・弥生（8期生）

キャンパス日誌（7月〜9月） …… 13

〈表紙写真〉
敬和カラーの浴衣で
新発田市内を踊り歩きました

KEIWA COLLEGE

敬和の庭

Close up

敬和学園理事　（第二代学長）
新井　明

新発田を去って一年半がたつ今でも、ときどき（役員会などで）敬和学園大学を訪れる機会があります。そのたびごとに少し早めに着いては、あの緑のキャンパスをぐるりと歩くのです。行くたびごとに、木々の育つのがわかります。マツやサクラやモミなど、それにケヤキは幹が太り、ツバキなども茂りがよく、すでに密植の体をなしています。学内最高のメタセコイヤとくると、すでに育ちすぎておりまして、すこし遠慮をしてもらいたいくらいです。思い出の木々、ユリノキ、しだれ桜、合歓（ねむ）なども、きちんと育っております。

木々をよく見ますと、その一本一本に枝打ちがしてあり、とくにまわりの雑草は刈られています。しかも根回りの土の色が変わっている木がありまして、それはあきらかにその根の土壌に養生の手の入っていることを証ししております。

開学当時、このキャンパスは新地（さらち）でして、木らしい木は一本もありませんでした。当時の写真が残っていますので、そのことがわかるのです。方々からご寄付をいただいたり、何かの記念に植えていただいたりして、いまでは一千本に近い樹木の立つ生き生きとした空間となりました。

●新発田への着任

二〇〇二年の初秋のことでした。初代学長の北垣宗治氏から電話が入りました。氏の学長職が終わろうとしているので、学内の統一見解として、あなたに新発田に来てもらいたい、ということでした。じつはその前年四月の新入生歓迎公開学術講演会にわたしはお招かれして、「北越のともしび」なるお話をしていました。その

ときに多くの先生方にもお目にかかっていましたので、学内の意見はまとまりやすかったということかもしれません。

その後、秋深きころ、後宮俊夫理事長が宇田川潔事務局長とごいっしょに、わたしが副理事長をつとめる東京・目黒のNPO今井館教友会の建物に、たしか二回もお越しくださって、敬和への着任を執拗に迫られました。その後、もういちど伺いますとのことでしたので、ご老体のご訪問は、こちらからご遠慮させていただいて、たしかその年の一一月の初めには新発田への着任の意図をかためたと記憶しております。

着任に当たり、「北垣学長の跡を」という文章をしたためました（『プニューマ』第三号、二〇〇三年三月）。教育の根幹には、（一）徳育、（二）知育、（三）体育の三部門が生きていて、教育は人格を育てる「全人教育」でなければならない。人間を社会・国家の設定する目標に向かわせて、効率よく人間製造を果たす教育などあってはいけない。つまり生まれながらの人間一人ひとりに与えられている価値を重視し、その育成にまい進する場が教育でなければならない、という考えを、北垣先生は、はっきりともっていらっしゃいました。つまり「自由高等教育」（リベラル・アーツ教育）の理念です。その北垣先生の跡をわたしは、まちがいなく歩んで行こうと決意したのでした。

中越沖地震でのボランティア活動（2007年7月）

北垣さんとは、北米のアマースト・カレッジで一九五七年に出会って以来の友人で、その友垣の関係が、その後半世紀ちかくの時間を経て、ここに再出発することになろうとは、夢にも考えないことでした。

●神に仕え、人に仕える

新発田にきてからは天然の災害がつづきました。二〇〇四年七月には中越地域に未曾有の集中豪雨が襲い、その後一〇月には中越地震、二〇〇七年七月には中越沖地震が起こりました。一般住民の家屋が倒壊したばかりか、柏崎刈羽原子力発電所も甚大な被害にあい、人びとはまたべつの危険に襲われたのです。そのたびごとに敬和の教職員と学生諸君はボランティア活動に出かけ、ふだん学園では得られない多くのことを学びました。苦しみあった人びとと苦しみを分かち合い、新たな道を求めて行く、という「共生」の思想です。共生社会学科がスタートしたのは二〇〇四年でしたから、「神に仕え、人に仕える」という敬和のモットーを、〈天然〉の声と動きが後押ししてくれた、という思いを禁じえません。

この流れのなかに位置づけられていいのが、「富塚・のぞみの里」です。紆余曲折の後に、敬和学園大学の敷地となった空間に、それは立ちました。この学園のなかに「弱き方がたのための力」となるべく立った施設が、この地域との連帯を養い、また深める結果を生むことになれば、と願うばかりです。

新発田学研究センターの開所（2006年11月）

●地域に根ざすリベラル・アーツ

北越の地にある敬和学園大学は主に北垣前学長のお力で、海外の幾つかの学園と提携関係を結んでいます。それは重要なことで、わたし自身もそのほとんどの学園を訪問しています。大事なきずなは、ますます強めてゆく必要があります。と同時に、敬和学園大学はその設置にあたって、労を惜しまなかった新潟、新発田、聖籠という土地への敬意を忘れてはなりません。

新発田市内の学校教育機関の在り方を検討する委員会にアドバイザーとして関わったことがありました。御免町（ごめんまち）小学校には「生き生きと表現する子ども（知育）、思いやりをもってかかわる子ども（徳育）、進んで体をきたえる子ども（体育）」を学校のモットーとして書いてありました。統廃合する学校に各校のモットーを出してもらいますと、「心の教育」「頭の教育」「体育」は新発田の大半の学校がモットーとして掲げていました。これはヨーロッパ、アメリカのリベラル・アーツ教育の根幹を為す「知育」「徳育」「体育」と一致しています。新発田・聖籠には、山あり谷あり、海ありで野原もあります。食も豊かです。また人間的に優れた人を輩出しているこの地にあって、地域全体の教育を豊かにしていくことを強く望んでいます。

地域から学び、地域に貢献するという意味で、各地で、面白いテーマを掲げてオープン・カレッジ（公開講座）を開いてきました。新発田市内では「新発田学研究センター」を開所し、この町の文化の深さを研究、確認する仕事を始めました。新発田の朝市「十二斎市」を復活させたり、「まちカフェ～Ｌｉｎｋ～」を開店させたりもしてきました。これらはいずれも財政面では市や県のご理解を得ての仕事ですが、まず学内の教職員・学生の一致団結の心がなくては実施できるものではありません。また三年前からは「阿賀北ロマン賞」なる文芸賞を設けました。作家で『三田文学』編集長の加藤宗哉氏を審査委員長とする賞でして、これには地元ばかりか、全国からの応募があります。こうした一連の動きは市民・町民の目を敬和に向けていただくについて、大いに役立ってきました。また、地域にたいする学生の関心の度合いを深めてきました。

植樹式、毎年、新入生のためにユリノキを植えます

「体育」はリベラル・アーツ教育において重視される科目ですが、一般の体育とは別に、ここ数年、バドミントンやアーチェリーの強化につとめてきました。これなども敬和学園大学なる小さな学園に、人びとの目を引きつける効果をもつにいたるにちがいありません。この小さな学園はこの地方に住む方がたの関心と支援がなくては立ってはいけません。新発田と聖籠との「共生」といってもいいことです。

●敬和の庭に育つ精神

ある卒業生からお便りが届きました。敬和への感謝の心で満ちた文面です。「素晴らしい先生がた、友人たちと出会えたこと。先生がたと学生たちとの距離が近く、いつも先生がたから気をかけていただけたこと。敬和学園大学に感謝です。」結びに「わたしの家の窓からはバイパスが見えるのですが、その道はあの学園に通じているということが、わたしの一つの希望をあたえてくれます。」とありました。教職員一体となって、若者の一人ひとりの根を養生する。ときに枝下ろしまでする。一人が一本の立派な木となることを願いつつ、です。木が育つように、若者たちよ、育っていってもらいたい。敬和の庭の精神を、乱れた社会に持ち運んでいただきたいのです。

開学の思い出、今後の期待

オレンジ会会長
渡辺　幸二郎

開学二年前に敬和学園大学設立決定のニュースが大きく流れました。新発田市長近寅彦氏と聖籠町長長谷川榮作氏とが、誘致に全力を挙げ、地元民挙げて大歓迎の中での開学でした。市と町とが一丸になって誘致した印として、校舎は市と町の境界線上に建築され、各棟が新発田館、聖籠館と命名されました。当時オレンジ会は未発足でしたが、地域の有志が協力し、自然発生的に〝地域後援会〟とでも言うべき組織が発足しました。これに北垣初代学長がオレンジ会と命名され、種々の活動が現在も続いています。

建築敷地である田んぼの真ん中に各棟が適切に配置され、そして設計担当の優れた技術者が具体的な作業を開始し、私は建築工事四社共同企業体（ＪＶ）の全体を指揮する立場を任されました。最初の工事では校舎・研究棟・図書館棟等、その後に体育館棟等が建築されました。

敬和学園大学の教育理念「神を敬い人に仕える」は新鮮なものでありました。そして「自分を知る。世界を知る。」は更に洗練された感じがあり、地域の人々が誇りを持てる素晴らしい理念です。今後は大学自らがこの言葉を実践することこそが、将来を明るくすると思いますし、私も協力を惜しまない所存です。

敬和学園大学二〇年の歩み

二〇〇一年四月には創立一〇周年記念式典を執り行いました。二〇〇一年には入学定員を確保するために、さまざまな対策を立てて対応していきました。

最初に、優秀な学生を獲得するために特待生入試を導入しました。また中学・高等学校の英語科教員対象に第一回リフレッシュ・セミナーを開催しました。二〇〇三年度から教員の高校訪問を出前授業に切り替え、従来の三年生に加えて一・二年生の保護者会を開催しました。

次に、内外の高等教育機関との連携を強め、二〇〇一年度から新潟大学人文学部および新潟国際情報大学と単位互換制度を実施しました。二〇〇一年度から日本文化・日本語研修プログラム（ＪＣＬＰ）を立ち上げ、米国・スウェーデン・中国・台湾から短期留学生が本学にきて、学内で国際交流する道を開きました。また長期留学生制度を導入して、従来の短期留学先に加えてオーストラリアのメルボルン大学ホーソン英語センター他に長期留学生を派遣しはじめました。また、二〇〇四年度には内モンゴル放送大学外国語学院と台湾の長榮大学、二〇〇五年度には黒龍江東方学院と堪江師範学院と教育学術交流協定を結び、短期留学の受け入れや派遣をする道を開きました。

さらに、二〇〇一年に人文社会科学研究所の開所式と開所記念講演を行い、学内の共同研究を活性化させました。また、

地域への奉仕と証し

社会福祉法人
シャーローム理事長
原田　史郎

敬和学園大学が二〇年を迎えましたことを、心からお祝い申し上げます。

私が一九八九年に新潟の教会に赴任したころ、大学設立を巡って高校と大学の間に意見の違いがあり、また、文部省（当時）との折衝も困難を極め、産みの苦しみがありました。それでも、関係者は、この大学は必ず開設に至る、という不思議な確信があったと思います。そのひとつは、高等学校開設に至るまでの祈りと奉仕の経験。また、地域のために、このキリスト教精神に基づいた高等教育機関は、主のご計画に適っている、という信仰ではなかったかと思います。

今日、高校・大学の信頼ある連携や、新発田市、聖籠町をはじめ新潟における大学の働きを見るにつけ、この地における敬和学園大学の存在意義は、これからも大きくなると思わされます。

なお、二〇〇八年、認知症対応型グループホーム「富塚・のぞみの里」が大学敷地に開設されました。それは、この土地が福祉施設ならば建設可能な指定区分地であったこと。大学の人材育成の研修のため、また地域への奉仕と証しの場として、大学からの要請に応えたものでした。両者の関係がこれからも緊密なものとなりますよう願っております。

二〇〇一～二〇〇五年度

それまでの教育実践を踏まえてミッション・ステートメントを作成し、教育方針を明確にしました。

二〇〇三年四月には新井明学長が二代目学長に就任し、学長交代とともに大学基準協会の認証評価審査で、新潟県で三番目に正会員として認証され、教育研究の質が保証されました。そして、一九九四・九五年度、一九九八・九九年度に続いて三回目の『二〇〇一年度自己点検・自己評価報告書』を公表して内外の関係者に配布しました。

二〇〇四年四月に従来の入学定員を変えずに、共生社会学科を新設し、社会福祉士国家試験受験資格課程を設置して、三学科体制に移行しました。また、英語英米文学科を英語文化コミュニケーション学科に名称変更し、第三次カリキュラム改革を実施しました。

二〇〇四年七月・一〇月に起きた中越水害・中越大地震の災害ボランティアに多くの学生と教職員が出かけました。

二〇〇五年四月に国際文化学科に公民の教職課程を設置しました。また、私費留学生の授業料・施設設備費四割カットの減免制度を導入しました。同年秋には創立一五周年記念セミナー・講演会を開催し、創立一五周年事業として『写真でつづる敬和学園大学 一五年のあゆみ』『卒業者名簿』「絵ハガキセット」を発行し、また、栄光館一階トイレをリニューアルしました。

（副学長　山田耕太）

アメリカと日本を結ぶ

日本文化・日本語研修プログラム（JCLP）
アメリカ人留学生を受け入れ交流

恒例の日本文化・日本語研修プログラム（ＪＣＬＰ）が、本年度も米国アリゾナ州エンブリィ・リドル航空大学（ＥＲＡＵ）の学生一七名を迎えて、五月二四日から六月二〇日に開催されました。

プログラム初日には、ＥＲＡＵと敬和学園大学との間で学術交流協定の調印式が執り行われ、更なる交流の促進が約束されました。

参加学生は、日本語講座で日本語を学び、日本文化研修では、茶道、剣道、和太鼓、生け花、書道を各専門家の指導を受け体験しました。ピロティに新設した学生ラウンジには交流コーナーが設置され、学生間で生の英語が飛び交いました。学内行事のスポーツ大会では、日米学生が一緒に汗を流し、一緒に声をからして応援しました。フィールドトリップでは、白根凧合戦や弥彦ツアー、新発田の名所見学などを行いました。また地元の高校や小学校を訪問し、英語交流活動を行いました。ホームステイでは、地域の方々からホストファミリーを引き受けていただき、地域に根ざした国際交流を展開することができました。

ご協力をいただいた皆さまに心より感謝申し上げると共に、国境を越えた友情の絆を深めていくことに、今後も力を注いでまいります。（国際交流委員会）

学術交流協定調印式

日本文化を体験（書道）

ピロティで日米学生が交流

【ＪＣＬＰ参加学生の声】

・キャンパス全体が友好的で、先生も学生も、日本語や日本文化を親切に、熱心に教えてくれました。さよならパーティーでホストファミリーに再会した時は、感激で胸がいっぱいになりました。

・日本文化は、私たちが慣れ親しんできた文化と違うものが多く、その違いを楽しむことができました。特に、書道は挑戦しがいがありました。

・日本文化は神秘と静寂に満ち、とても刺激を受けました。日本文化の本質にふれることができました。

・フィールドトリップで地元の人々と話ができたのがうれしかったです。このプログラムに参加していなければ得られなかった体験ができてよかったです。

JCLP に参加した学生たち（白根凧合戦にて）

交換留学プログラムが進展

アメリカ文化・英語研修プログラム（ACLP）
アリゾナで二九日間の異文化体験

エンブリィ・リドル航空大学（ERAU）との交換留学プログラムとして、昨年スタートしたアメリカ文化・英語研修プログラム（ACLP）が、今年も八月四日から二三日の日程で実施され、敬和学園大学から九名の学生が参加しました。

留学期間中は、ERAUキャンパス内にある大学寮に滞在し、密度の濃いスケジュールをこなしました。

ボランティア活動では、地域の図書館や高校、老人ホームなどを訪問し、日本の紙芝居や折り紙、書道、四季の童謡などを披露して、現地の人々と豊かな交流の時を過ごしました。

留学先の米国アリゾナ州は、グランドキャニオンをはじめとした自然が織りなす壮大な景観の宝庫です。フィールドトリップで体験したアリゾナの名所観光は、忘れられないシーンの連続でした。

ホームステイを引き受けてくれたコミュニティの方々、そしてJCLPに参加したERAUの学生たちの暖かいおもてなしは、参加学生それぞれの心に大きな感銘を与えました。

両大学の学生同士の交流がさらに発展していくよう、今後も、JCLPとACLPとのプログラム連携を深めていきたいと思います。

（国際交流委員会）

壮大なグランドキャニオンを背に

JCLP に参加した学生との再会

ERAU の学生を交えた授業

英語文化コミュニケーション学科一年
赤松　侑（ゆう）

アメリカを無理やり一言で表すなら「大きい」です。土地も道路も食べ物も、何から何まで大きいのです。椅子に座れば足がつかないなんて当たり前。外食は、完食するのが難しく、笑えるくらいの大きさでした。そしてなにより、人の心の大きさです。アメリカの皆さんはとても優しくて、私のでたらめな英語を最後まで聞いてくれます。温かい笑顔で答えてくれます。いつでも真剣に、大きい心で受け止めてくれるのです。本当に毎日が楽しかったです。来年もまた参加したいです。

英語文化コミュニケーション学科二年
溝口　綾女（あやめ）

一番心に残ったことは、ホームステイです。緊張して不安ばかりの私を、ホストファミリーが温かく迎えてくれました。一緒に乗馬や買い物をして、さまざまな思い出ができました。さよならパーティでは、「またきてね」と涙ながらに言ってくれて、本当にうれしかったです。ホームステイはわずか三日でしたが、本当の家族になれた気がしました。そして、人の温かさをたくさん感じることができました。またいつか、ホストファミリーに会いに行きたいと心から思いました。

第二〇回 敬和祭のご案内

ありがとう二〇年〜敬和より愛をこめて〜

今年の敬和祭のテーマは「ありがとう二〇年〜敬和より愛をこめて〜」です。敬和学園大学が成人の年を迎えることができたことへの感謝の心を素直に表し、この敬和祭で、自分たちのできる精一杯のことを皆さまに提供したいと思います。

今年は、髙田道場代表の髙田延彦さんとダンサーのEGU−SPLOSIONさんをゲストにお迎えします。そのほか、公演や演奏を行う各学生サークル・団体もこの日を目標に日々練習を重ねてきました。バラエティ豊かなメニューを揃えた屋台も、ぜひお楽しみください。

外国語スピーチコンテストやオープンキャンパス、オープン・カレッジも同時開催し、盛りだくさんの二日間です。

支えてくださっている地域の方々に感謝し、学生一同、皆さまのご来場をお待ちしています。（敬和祭実行委員会）

髙田　延彦さん

2010 敬和祭のスケジュール

月　日	時　間	企　画
10月22日（金）	13:30〜16:00	敬和ふれあいバラエティ
10月23日（土）	10:00〜16:00	茶道部による茶会（裏千家）
	11:00〜16:00	屋台・教室展示（両日とも）
	13:00〜15:00	外山節子教授による英語で遊ぼう！
	14:00〜14:30	聖籠太鼓･響･SATO−OTOによる公演
	14:50〜15:50	ブラスバンド部による公演
	15:00〜17:20	ホームカミングデー第1部
	16:00〜17:00	髙田延彦トークライブ
	18:30〜20:30	ホームカミングデー第2部（新潟グランドホテル）
10月24日（日）	11:00〜13:30	ＦＭしばた生中継・収録（FMラジオサークル）
	11:30〜17:30	学生ライブ
	11:50〜14:00	外国語スピーチコンテスト
	13:40〜14:00	敬和学園高校よさこい同好会による公演
	14:00〜14:30	チアリーダー部によるダンス公演
	14:30〜15:30	EGU-SPLOSIONダンスライブ

EGU-SPLOSIONさん

〜スローでつなぐ〜

まちカフェ・りんく リニューアル・オープン

新発田商店街の空店舗を利用し、学生が中心に経営する「まちカフェ・りんく」がリニューアル・オープンしました。まちカフェだけでなく、まち全体を学生たちの活動の場として位置づけ、学生が地域に入り、地域から学び、地域とともに成長していくことを目指します。

①地産地消の食を中心とした地域社会健康づくりと商店街活性化、起業家精神の育成、②地域活動に積極的に関わることによる地域ネットワークづくりをすすめていきます。（共生社会学科　趙）

まちカフェの学生スタッフ

●場所　新発田市諏訪町一
●営業　月、火、木、金、土曜日
　九時三〇分〜一七時
※駐車場利用は一六時三〇分まで

ご家庭と大学が連携し、よりよい進路選択へ

三年生の就職活動にむけたキャリアサポート

三年生保護者を対象とした就職懇談会を七月二四日、新潟グランドホテルにて開催し、五九名の保護者の皆さまにご参加いただきました。多くの三年生が就職活動を開始するこの時期、就職状況が厳しい中、一層の緊張感がご参加の皆さまからも感じられました。

前半は本学のキャリアサポート体制と就職状況について講演を行い、後半は学生を直接担当するアドバイザー教員との懇談を通して、学生一人ひとりの進路について情報交換を行いました。社会人としては大先輩の保護者の皆さまも、ご自分の世代とは違う昨今の「就職活動」をめぐる問題に戸惑い、不安を感じていらっしゃるようでした。ご家庭と大学が連携して、より望ましい進路選択へのサポートができればと願っております。

本誌でもご紹介しました文部科学省の大学教育・学生支援推進事業（平成二一年度採択）「小人数教育を活かした学士力を養うパーソナルなキャリア支援」が継続しています。三年生対象の「キャリア開発」では、後期から就職活動を踏まえた実践的な内容に入っていきます。面接指導を受ける学生のために、客観的に自分の印象を研究できるよう、ビデオカメラの導入を予定しております。また本年度より単位化された二年生を対象とした「キャリア開発入門」、全学年を対象とする簿記検定、公務員採用試験対策講座などの支援講座を開講しています。後期からは、販売士、秘書検定の講座が始まります。厳しい状況ではありますが、大学のキャリアサポート体制とプログラム内容をご理解いただき、大学でできることを大いに活用して、自分の進路に前向きに、そして早目に準備をする手助けをしていただければと存じます。

三年生の採用活動（エントリー）が一〇月から始まりますが、四年生の就職もまだまだ厳しい状況です。未内定学生に関しては、個別に連絡を取り、指導に当たっております。ご家庭でもより一層の後押しをよろしくお願いいたします。

（就職委員会・キャリアサポート課）

保護者の皆さまと情報交換（就職懇談会）

学業・スポーツをがんばる高校生を応援

推薦入学試験のご案内

六月から始まったオープンキャンパスも、おかげさまで毎回大盛況のうちに開催でき、残すところ、敬和祭と同日に実施する第五回のみとなりました。そして、敬和祭翌日の一〇月二五日（月）からはいよいよ推薦入学試験の出願受付が始まります。

今年は一一月一三日（土）に、指定校推薦入学試験（Ⅰ・Ⅱ）、公募推薦入学試験、スポーツ推薦入学試験を実施します。

指定校推薦入学試験では、今年も特待生特別選抜を実施します。評定平均値四.〇以上の受験生を対象とし、試験科目は小論文と面接です。特待生として採用された受験生には授業料全額または半額免除の資格が与えられます。

また、スポーツ推薦入学試験では、本学の強化スポーツ種目であるバドミントン、アーチェリー、テニスで優秀な成績を収めた受験生を対象に選抜を行います。こちらもスポーツ特待生制度があり、受験生には授業料等免除のチャンスがあります。入学後には、全国大会で活躍している先輩たちと一緒に、実績のある監督の指導の下、より高いレベルでの活躍を目指していきます。

本学進学を考えている方は、お気軽に入試課（〇一二〇-一二六-三六三七）までお問い合わせください。

（入試委員会・入試課）

二〇周年記念式典等のご案内

敬和学園大学は、一九九一年四月に開学し、このたび創立二〇周年を迎えることができました。これもひとえに皆さま方のご支援のたまものと深く感謝しております。

つきましては、創立二〇周年記念式典および記念講演、記念祝賀会を左記のとおり開催することになりましたので、ご案内申し上げます。

なお、大変申し訳ございませんが、参加申し込みに関しては事前申し込みのみとさせていただきます。申し込み先の総務係までご連絡いただきますようお願いいたします。（総務課長　小竹）

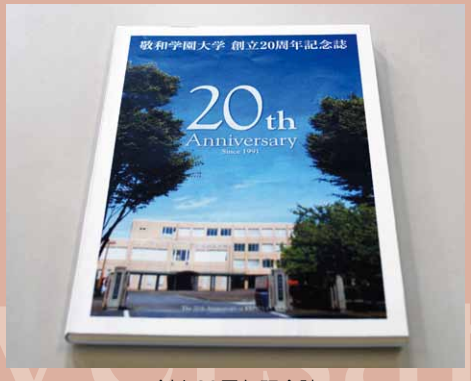
日　時　二〇一〇年一〇月三〇日（土）
会　場　敬和学園大学体育館
・記念式典　一四時～
・記念講演　一五時三〇分～
「自分を知る。世界を知る。」
講師　久保 正彰　先生
日本学士院院長・
東京大学名誉教授
・記念祝賀会　一六時四〇分～

※当日は佐々木駅よりバスを運行いたしますのでご利用ください

申込先　敬和学園大学総務課総務係
電　話　〇二五四（二六）三六三六
メール　somu@keiwa-c.ac.jp

二〇周年記念誌・DVDを発行します

創立二〇周年式典に合わせて記念誌が発行されます。校歌楽譜と鈴木佳秀学長の巻頭言に続き、第一部で、北垣初代学長、新井前学長、山田が歴史を記しています。第二部では、キリスト教と教育・ボランティア・入試・学生・就職・広報の各委員会、人文社会科学研究所、新発田学研究センター、事務局、後援会、オレンジ会の歴史が綴られています。第三部では、CAHや公開講座講師、学生・教職員数、理事・専任非常勤教員・職員一覧等のデータが収められています。巻末には、二〇年史の映像と大学案内ビデオ、校歌とキャンパス・ソングがDVDに収められています。（副学長　山田）



創立20周年記念誌

寄付者ご芳名

（二〇一〇年八月三一日現在、敬称略）

二〇周年記念募金

〈一　般〉
安藤眞知子、坂東克彦、後藤かほる、原　義雄、間　道夫、居城嘉一、井上正一、石原正樹、小林美智子、小柳昭治、松原　孝、松澤郁子、目黒　義幸、西條美栄子、大西しげ子、佐藤和子、佐藤康信、田村道子、谷　紳一、冨岡郁子、脇本武司、山際多美子、
㈱岩村組、
日本基督教団　東新潟教会、
日本基督教団　代田教会、
新潟公務員法律専門学校、
日東アリマン㈱、
新発田ヤクルト販売㈱、
新菖工業㈱、
㈶下越総合健康開発センター

〈卒業生・在学生・保護者〉
今井正仁（一）、栗栖仲次（三）
片山雄一朗（五）、松井幸一（一七）、
山田泰則（一九）

〈学園関係〉
新井　明、榎本一恵、五十嵐海理、小西二巳夫、松原洋子、松井愛美、皆川　靖（一）、西澤昭夫、小川文勝、高橋美香（一）、渡邊　満

敬和学園大学の校歌ができました

創立二〇周年を記念し、校歌ができました。約二年前に創立二〇周年記念事業準備委員会を立ち上げ、記念事業を五点に定め、その一つに校歌制定を挙げて募金活動をすることにしました。

作曲は、合唱曲を二、〇〇〇曲以上作曲し、「さっちゃん」「犬のおまわりさん」などの童謡でも知られる大中恩氏（「椰子の実」の作曲家、大中寅二氏の長男）、作詞は、大中恩氏の作詞パートナーである北島万紀子氏にお願いしました。お二人は敬和学園高校創立四〇周年記念の「敬和讃歌」の作詞・作曲家でもあり、大中恩氏は敬和学園高校の校歌も作曲しておられます。斉唱と合唱の二つの版があり、詩篇一二一編一・二節をモティーフに建学の理念をよく謳いあげてくださっています。

この校歌は、本学ホームページ（http://www.keiwa-cac.jp/annai/symbol.html）でお聴きいただくことができます。

（副学長　山田）

敬和学園大学校歌のCD

敬和学園大学校歌　北島万紀子 詩

一、神を敬い
人に仕える
キリストの歩まれた道
我等共に従わん
名もなく よわく 傷ついた
そんな 隣人にこそ
よりそえる ものとなりたい
愛する勇気
誠めて ゆこう
明日の夢に向い
敬和の希望の森から
こころたかく 目をあげて
はるかな山に いのろう。

二、神を敬い
人に仕える
キリストの誠し 尊く
神の真理 身にまとい
互の重荷 担いあう
そんな 想い人にこそ
生かされる ものとなりたい
信じる力
育てて ゆこう
明日の 夢に向い
敬和の 自由の森から
こころたかく 目をあげて
はるかな山に いのろう。

（北島万紀子氏 実筆）

一般寄付者

〈一　般〉
長谷川喜代、林　律子、池田夏夫、神田礼輔、小島　享、澁木貴子、白井秀夫、鈴木史江、㈱大西

〈卒業生・在学生・保護者〉
今井正仁（一）、有澤未欧（七）、五十嵐亜希（八）、加藤雄太（一三）、島田裕子（一七）

〈学園関係〉
敬和学園大学後援会（2）
日本地域福祉学会第二四回新潟大会実行委員会
オレンジ会

（　）内、漢数字は期生、算用数字は回数

本学にお寄せくださった皆さまのご支援・ご厚意に心より感謝申し上げます。

同窓会リレー・エッセイ 16

大家族に感謝

二〇〇〇年度・二〇〇一年度卒業
寒河江　聡
弥生（旧姓：平沼）

敬和学園大学を卒業して九年、主人は一〇年経ちました。

在学中、主人は同じ少林寺拳法部の先輩で、サークル活動では主人から指導を受け、授業の後には私が主人に英語を教えたりする中で、お付き合いをはじめました。そして、お互い卒業後三年ほど仕事をして、六年前に結婚をしました。

私たちは現在、二人の娘と主人の両親、主人の祖母と七人で新潟市に暮らしています。結婚する前は、二人で暮らすことに憧れていましたが、今では家族みんなで暮らすことのすばらしさを感じています。私の実家は北海道で、すぐに私の両親に頼れる距離ではありません。このような状況で、主人の両親には結婚する前から温かく接してもらい、私も甘えてきました。今でも温かく私たちの子育てを見守って、時には手を貸してくれ、本当の両親のように支えてくれています。

今現在、私は主人の両親の協力もあり、少しだけ、お仕事をしながらゆっくり子育てができています。共働きをしている方も多い中、五歳と三歳の娘たちをゆっくりみられる幸せは同居のおかげだと日々周りの方たちに感謝しています。

主人は二年前に、八年働いていた職場を辞め、転職しました。子どもが二人いるなか転職することには少し不安もありましたが、子どもたちが保育園に入ると同時に次の職場も決まり、本当によかったです。今では主人も子どもと触れ合う時間も増え、夫婦で子ども中心の生活ができるようになったのでうれしく思っています。

今回の「同窓会リレー・エッセイ」という場をお借りして、改めて私たちの両親や家族に感謝をする機会を与えていただきうれしく思います。

私たち夫婦二人、大学で学んだことを、子育てやこれからの人生に活かせるよう家族みんなで協力し、助け合って生きていきたいと思います。

学事予告

◆一〇月◆
一　日　履修登録票提出期間（四日まで）
二　日　共生社会学科公開学術講演会
五　日　新潟市北区オープン・カレッジ②
一〇日　新発田朝市十二斎市
一二日　新潟市北区オープン・カレッジ③
一三日　履修登録確認期間（一九日まで）
一五日　学費後期納入最終日
一七日　社会福祉士模擬試験
一九日　新潟市北区オープン・カレッジ④
二二日　ふれあいバラエティ
二三日　敬和祭（二四日まで）
二四日　ホームカミングデー
　　オープンキャンパス⑤
　　外国語スピーチコンテスト
　　新潟市北区オープン・カレッジ⑤
三〇日　二〇周年記念式典・講演会

◆一一月◆
五　日　社会福祉事前実習2
六　日　一・二年生保護者との懇談会
一〇日　企業との就職懇談会
一三日　推薦入学試験
一五日　社会福祉現場実習2（二七日まで）
二七日　高校・大学合同研修会

◆一二月◆
一七日　クリスマス行事
二五日　冬期休暇（一月三日まで）

From Campus

キャンパス日誌

7 July

1 新潟向陽高校大学見学（PTA10名、教員1名）
2 チャペル・アッセンブリ・アワー⑪
説教　山﨑ハコネ 准教授 「主の山に備えあり」
石川美佐子 非常勤講師 「校歌合唱指導」
グランドピアノ奉献式
3 シニア生涯学習相談会（新潟大学ときめいと）
大学オープン・カレッジ③④（～4日、99名、写真①）
講師　吉田新一 立教大学名誉教授 「絵本の愉しみ4」
6 新発田市オープン・カレッジ⑤（新発田市生涯学習センター、49名）
パネルトーク「まちなかで見る・撮る映画の魅力」
講師　神田正明 新生ネットワーク代表
鈴木貴之 映画制作プロデューサー
久志田渉 シネ・ウィンド書籍管理部長
7 教授会
ボランティア論・学習セミナー
講師　真壁伍郎 新潟いのちの電話理事長
「心かよう助け合いの秘けつ」
対談　真壁伍郎 新潟いのちの電話理事長
大澤秀夫 敬和学園大学宗教部長
「いのち・ボランティア活動の根っこにあるもの」
9 チャペル・アッセンブリ・アワー⑫
説教　西川幸作 日本基督教団三条教会牧師
「人に仕えること、神に仕えること」
講話　吉原悠博 吉原写真館当主・非常勤講師
「敬和学園大学20周年映像編集にかかわって」
13 開志学園高校大学見学（2年生30名）
16 チャペル・アッセンブリ・アワー⑬
説教　山田耕太 副学長 「若者は幻を見る」
教職課程4年生 「教育実習報告会」
23 チャペル・アッセンブリ・アワー⑭
説教　鈴木佳秀 学長 「信仰に比較級はあるのか」
キリスト教音楽の受講者によるコーラス（写真②）
24 前期講義終了
荒川高校大学見学（PTA 20名）
3年生保護者との就職懇談会（新潟グランドホテル、59名）
聖籠町キッズカレッジ①（結いハート聖籠、32名）
講師　趙晤衍 准教授 「夏休み子ども陶芸教室」
26 前期末試験（～31日）
新発田南高校インターンシップ（2名、～28日）
新井高校大学見学（1年生35名、教員2名）
27 新発田南高校イングリッシュセミナー（1年生120名）
村松高校イングリッシュセミナー（2年生4名）
十日町総合高校大学見学（1年生40名、教員2名）
28 新発田南高校イングリッシュセミナー（1年生81名）
村松高校イングリッシュセミナー（2年生4名）
五泉高校大学見学（1年生42名、教員2名）
29 理事会
30 社会福祉現場実習1報告会

8 August

1 夏期休暇（～9月20日）
オープンキャンパス②
2 前期集中講義（～6日）
3 新潟県大学ガイダンスセミナー
4 エンプリィ・リドル航空大学（アリゾナ州）短期留学
（～8月22日、9名）
5 文部科学省戦略的大学連携支援事業
「くらしの中にある学び」（朱鷺メッセ、写真③）
6 教員免許状更新講習（69名）
中・高生向け講座　文章スキルアップ・セミナー（17名）
講師　加藤宗哉 作家・「三田文学」編集長
「プロの作家に学ぶ文章作法」
7 聖籠町キッズカレッジ②（結いハート聖籠、32名）
講師　趙晤衍 准教授 「夏休み子ども陶芸教室」
9 前期集中講義（～12日）
17 前期集中講義（～20日）
20 職員研修会
22 オープンキャンパス③
25 新津南高校大学見学（1年生31名）
26 新津南高校大学見学（2年生29名）
27 城下町新発田まつり民謡流し（学生32名、教職員19名）
31 再試験（前期卒業者対象）

9 September

1 教育実習事前指導研修（国立妙高少年自然の家、～3日）
社会福祉士国家試験対策講座3（新潟県青少年研修センター、～3日）
前期追試験（～3日）
4 シニア生涯学習相談会②（新潟大学ときめいと）
8 教授会
16 理事会
20 オープンキャンパス④
シニア生涯学習相談会③
社会福祉士模擬試験
21 前期卒業式（写真④）
24 履修相談日
25 後期講義開始
中・高生向け講座　英検2級対策英語集中講座（11名）
講師　中村義実 教授（写真⑤）
28 新潟市北区オープン・カレッジ①（豊栄地区ふれあいセンター、32名）
講師　鈴木佳秀 学長
「ユダヤ人家庭における母親の役割・古代から現代まで」

KEIWA COLLEGE REPORT
October 2010

Gems in KEIWA

チャレンジ学生ファイル Vol.31

敬和から世界へ情報発信

国際文化学科３年
緒方　國介（くによし）

敬和ランチの打合せ（右が緒方さん）

敬和ランチ　毎週水曜12時30分から放送
http://www.ustream.tv/channel/keiwalunch

一戸先生のゼミで、インターネットを利用した情報の分析や発信を通し、情報社会のさまざまな事象を学んでいきます。今年に入って、Ustreamというツールを利用して、昼休みにインターネット生放送「敬和ランチ」をはじめました。Ustreamとは、カメラとマイクをパソコンに繋いで、世界中のユーザに対して生放送を流すことができるツールです。

敬和ランチでは、敬和や他大学で活躍する学生をゲストに招いています。私は、企画立案やゲストとの交渉、質問の用意等をするディレクターを担当しています。最初はこの役割の重責に「なぜ自分が、他にもいい人がいるのに…」と思いましたが、回を重ねるにつれ、自分の中に多少なりとも自信が芽生えてきました。先生に叱咤される場面もありますが、他のメンバーの支えにより放送は継続し、今の自分があります。

毎週この放送を期待して待ってくれている人が少数ですがいらっしゃいます。この期待に答えられるよう、放送を継続し、この輪を広げていきたいです。

発行／敬和学園大学
印刷／島津印刷株式会社
〒957-8585 新発田市富塚1270番地 Tel.0254-26-3636
〒957-0000 新発田市富塚1419番地 Tel.0254-27-2101

20th ANNIVERSARY
皆さんとともに20年。 Since 1991
敬和学園大学の最新情報
敬和学園大学　検索
www.keiwa-c.ac.jp